

大学発アーバンイノベーション神戸 研究成果報告書



大学発アーバンイノベーション神戸
University's Urban Innovation Kobe

研究課題名：神戸港に関する地図資料類の調査、データベース化と普及活用に関する研究

研究期間：2022年6月～2024年3月

交付決定額(研究期間全体)：3,000千円

申請区分：一般助成型
課題番号：A22105

研究代表者：神戸大学大学院人文学研究科
准教授 菊地 真

1. 研究成果の概要

- 神戸大学海事博物館が所蔵する地図ほかの悉皆調査を行った。詳細な目録の作成と高精度画像によるデータベース化を進めることが出来た。
- 近世の航路絵図は大阪湾岸について、港や名所等を描きこみ沿岸の景観を記録している。絵図相互の比較検討がさらに求められる。近代以降は日本の船舶貿易の発達を伺わせる資料が多い。進水式絵葉書をはじめ、デザインや作者に関する研究の深化が望まれる。
- 資料の活用方法について、巡検、ワークショップなどの実施を具体的に検討できた。企画展での資料展示など、引き続き、神戸大学海事博物館を軸とした展開を検討していく。

2. 研究成果の学術的意義や社会的意義

- 学術的意義

本研究では当該資料の調査研究によって、海港都市神戸をめぐる地誌的様相を明らかにする。海事史学、歴史地理学において、近代以前の航路の実態、航路の発達過程の研究を、さらに推進するものと期待される。

- 社会的意義

資料を読み解き、神戸の資料として広く一般市民に示すことに第一の意義がある。博物館活動として神戸市立博物館での展示など普及活用事業を展開し、資料の保全と公開を進められる。

3. 研究開始当初の背景

- 「多様な文化・芸術・魅力づくりー文化財の新たな保存と活用の推進」で示される、神戸の歴史文化の継承を目指し、基礎となる地域資料の保存と活用を、神戸大学海事博物館において展開することが重要であるとの認識。（神戸2025ビジョン基本目標3）
- 神戸大学海事博物館の所蔵資料について、神戸と海の関わりを具体的に地域像として提示し、神戸の歴史資料として活用する基盤整備を進めていく。
- 博物館は地域と相対する現場であり、神戸の歴史文化を継承するために、海事博物館の所蔵資料の充実と調査研究、市民との連携を深めることが重要な課題である。

4. 研究の目的

- 神戸大学海事博物館の所蔵資料のうち、地図および地図関連資料の悉皆調査を行うことで、ことに海港都市神戸や沿岸港町等の相互の繋がり、人や物の交流の発達と空間的な変容について歴史地理学的研究を行う。
- 海事博物館の所蔵資料の目録・データベース化を行い、展示公開や研究への活用のし易い基盤的な環境整備を進める。学術的成果について海事博物館を軸に展示などの普及活動を計画するとともに、学生や地域住民への活用方法を試行検討し、共有を図る。

以下の方法による。

- 神戸大学海事博物館の資料台帳を確認し、対象とする地図類を抽出する。
- 抽出した地図（絵図、旧版地形図・海図、など）、関連資料（絵葉書、ポスター、リーフレット、など）について、悉皆調査を行う。
- 熟覧、目録作成、写真撮影、データベース化、各資料間の比較検討。
- 神戸沿岸域の歴史地理、地誌的様相の検討。
- 資料の公開活用方法の検討。

6. 研究成果

- 幕末～明治：大阪湾は多くの絵図に描かれ、敦盛塚など名所案内の性格も強い。大阪から江戸までの太平洋岸を描いた絵図が、神戸市立博物館所蔵資料と同一写本であるのを確認した。細部の相違は引き続き検討している。
- 明治大正以降：例えばWWⅠ以前刊行の世界図は航路を朱線で示し、日本と世界を結ぶ外航航路が発達していく様相がうかがえた。進水式絵葉書では、原画作者として地元神戸の画家が特定された。船舶関係はポスターなど広報資料も多いが、デザインや作者に関する先行研究は乏しく、更に検討中である。
- 資料の調査、活用に関して、本学文学部生や市内高校生を対象に、神戸市内の景観を実際に歩くワークショップ、あるいは古地図を比較対照して神戸の街並みの変化を読み取るワークショップを試行した。なお上記成果を得た資料群は、高精細画像によるデータベースを構築中である。

「2023年度所蔵資料調査～絵図、絵葉書類～」 菊地 真・井口琢人・藤本奈緒
(2024) 神戸大学海事博物館研究年報